

令和2年第9回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 令和2年(2020年)9月28日(月) 午後2時
- 2 場 所 南茅部総合センター
- 3 出席者 辻教育長, 藤井委員, 小葉松委員, 須田委員, 青田委員
- 4 欠席者
- 5 事務局 堀田生涯学習部長, 松田学校教育部長, 吉本生涯学習部次長,
池田生涯学習部次長, 瀬戸教育政策推進室長, 東出管理課長,
大室教育政策課長, 佐藤学校再編・地域連携課長, 長谷山文化財課長
- 6 傍聴者 5人
- 7 付議事項

日程第1 議案第1号 令和2年度教育委員会の事務の点検および評価報告書(案)の決定に関し, 議決を求めることについて

日程第2 視 察 史跡垣ノ島遺跡

■辻教育長

- 開会宣言 午後2時
- 議事録署名人に, 藤井委員, 小葉松委員を選任。
- それでは, 日程第1, 議案第1号「令和2年度教育委員会の事務の点検および評価報告書(案)の決定に関し, 議決を求めることについて」諮る。

■学校教育部長

- 議案第1号「令和2年度教育委員会の事務の点検および評価報告書(案)の決定に関し, 議決を求めることについて」説明する。このたびの事務の点検および評価については, 9月25日付けで函館市教育振興審議会から答申を受けたことから, 点検・評価の結果と併せて報告書の最終案として取りまとめたところである。本日は, その決定に関して議決をいただこうとするものである。なお, 函館市教育振興審議会からの答申については, 報告書(案)の173ページ以降に掲載している。また, 今後の予定については, 議決をいただいた後, 市議会の全議員に報告書を配付するとともに, 教育委員会ホームページへ掲載するなど評価結果を市民へ公表したいと考えている。

■辻教育長

- 先日、函館市教育振興審議会の会長から答申をいただいた際には、これほどいろいろな取り組みを行っているということが、市民の皆様十分に知られていないという側面もあるため、このような活動をしているということを、より一層周知に努めてはいかがかというのを強調されていた。
- それでは、第1号議案について何かあるか。

■藤井委員

- 175ページ、「施策2、豊かな心を育む教育の推進」のなかで、こころの相談員やスクールカウンセラーについて、市全体への周知を図るとともに、活用についての教職員の研修を充実させる必要があると記載されている。私も9年ほどスクールカウンセラーをしており、その経験から、この数年は、こころの相談員やスクールカウンセラーの活用については充実してきていると感じる。特にスクールカウンセラーは、開始当初の8年ほど前と比べると、この数年は、事前に教頭先生や担任の先生から連絡があり、学校に行くと常に面談が入っているという状況である。また、様々なアセスメントの依頼もあり、やりがいを感じている。現在は、スクールソーシャルワーカーやこころの相談員と連携して活動することが多くなっており、さらに最近は、特別支援のサポートスタッフと連携して、指導検査等の結果を共有して保護者に説明するなどの活動も可能になってきている。また、少数ではあるが、教職員からの理解を得られていないという感想をもっている方もいるようなので、教職員への研修の充実は必要だとは思いますが、総じて、随分と改善されていると感じる。

■辻教育長

- 今の意見は、藤井委員の実感として、子どもたちは以前ほど壁がなく、相談に来てくれているということか。

■藤井委員

- そのとおりである。また、担任の先生からの相談も頻繁にある。昨年からは拠点校方式になり、中学校のスクールカウンセラーが小学校にも行くようになった。小学校からのニーズもある。

■辻教育長

- 他に何かあるか。

■青田委員

- 点検評価の方法について、5ページには、「PDCAサイクルを明確にした」とあるが、教育の世界でPDCAサイクルを回すというのは、あまり相性が良くないといわれている。最近ではPDCAサイクルに代わり、OODAという手法の方がいいという研究テーマがある。結果が出るまでに時間がかかるPDCAサイクルが教育の評価に本当に合っているのかという協議をどこかでしたほうがいいと思う。

■辻教育長

- 確かに、例えばこれくらいのお金をかけて建物をつくり、その結果こうなったというような評価を出しにくいのが教育分野である。

■青田委員

- 変化が激しい時代にはPDCAサイクルは向かないという面もある。変化に対応できる評価システムを検討すべきである。

■辻教育長

- それは、この評価報告書を作成する際にも、そういった新たな視点を研究しながら作成するほうがいいということか。

■青田委員

- そうしたほうが、行政職員もやりにくさが改善されるのではないかと思う。

■辻教育長

- 事務局としては、評価報告書を作成するにあたって、あるいは教育委員会の評価をしていくにあたって、何かあるか。

■教育政策課長

- この形式になって2年目であり、事務事業の一つ一つをわかりやすいようにするためにこの形式を採用してきたが、ただいまの意見を参考にしながら、より良い、そしてすぐに対応できるような形式を模索していきたいと思っている。

■辻教育長

- 他に何かあるか。

■小葉松委員

- 179ページに「新型コロナウイルス感染症関係」とあるが、この点については来年度がメインの評価になるだろう。北海道では1月に最初の患者が出て、2月、3月は現場の先生や事務局の職員は大変な苦勞をされたと思う。過去に経験のない、疫病の天災というような状況に対応したことは、良いことも悪いこともあったと思うので、これから先の世代に、経験としてどのように残していくのかということ、今年度以降どのような形であれ、申し送りができるように検討していただきたい。

■辻教育長

- そのとおりである。他に何かあるか。

■須田委員

- 先生方の努力のおかげで、学習能力という点では非常に成果が挙がってきていると思う。しかし、以前から思っていることは、45ページにあるような体力・運動能力に関する点について、なかなか数値的な成果がみえてきていないということである。報告書の後半部分にはスポーツ振興分野には良い経過がみられるとあるが、実情として、学校教育分野に反映されていないと思うので、もう少し具体的な改善策をみつけて、実行していただきたい。

■辻教育長

- 全国体力・運動能力調査については、以前にご指摘をいただいてもなかなか成果が出ていない。その点について、学校教育部長から何かあるか。

■学校教育部長

- 全国体力・運動能力調査については、単純にスポーツが好きだという子どもの人数は多くなってきてはいるが、運動が好きな子と全然運動しない子が二極化していてその差が大きくなっている。運動の習慣化が必要であり、体育の授業改善を進めている。そして、生涯スポーツ的なものに繋がっていくのが望ましいと考えている。

■須田委員

- 無理強いする必要はないが、子どもにとって心身の健康や自信にも繋がっていくので、多少のことでも褒めてあげるなどしていただきたい。子どもの教育という意味では学力とは別なものとして、大事なことである。

■辻教育長

- 他に何かあるか。

■藤井委員

- 52ページの通学路安全対策の推進の総合評価が△になっているが、登下校中の交通事故の件数から考えると、それほど低い評価としなくても良いのではないかと。私の自宅の近くでは、大きな事故が発生して以来、毎日見守り隊が出動しているが、全市的にみると、対策が不十分ということか。

■辻教育長

- このような総合評価になった経緯について、事務局から説明していただきたい。

■教育施策課長

- 評価については、進捗、成果、課題それぞれの視点における評価から自動的に○、△、×の総合評価が出てくるシステムとなっている。事務局としては、「進捗がやや遅れている、成果が不十分である、しかし、課題は少ない」と評価した結果が△という総合評価になっている。この項目については、事務局としての主観的な側面も含まれているため、△という総合評価になっている。

■辻教育長

- この項目については、客観的な数字として、子どもが被害に遭う件数が多いであるとか、事故件数が多いといったことではないということか。

■教育政策課長

- そのとおりである。事務局の取り組みとして少し遅れているといった評価である。

■辻教育長

- この項目については議会でも取り上げられている。不審者が多く出ているが、子どもの見守りについては学校の先生だけでは不可能である。町会などにも手伝っていただいている地域もあるが、地域によって差があるので、今後も対策を進めていく必要があるということである。

■藤井委員

- 地域差があるのであれば、コミュニティ・スクール等に積極的に働きかけていく必要があるだろう。

■辻教育長

- それでは若干の文言の修正はあるが、第1号議案については、概ね原案のとおり決定する。

■辻教育長

- 次に、日程第2、視察「史跡垣ノ島遺跡」を始める。

(視察)

■終了宣言

- 午後4時10分

議事録署名人 藤 井 壽 夫
" 小葉松 洋 子

調製者庶務係 中 田 壯 研